

基本目標 4 人口減少・高齢化社会に対応したまちづくりを進める

〈基本的方向〉

①高齢化社会への対応

湯河原町の高齢化率は4割目前となり、高齢化が進展しています。国立社会保障・人口問題研究所の推計では、平成72年（2060年）に49.4%の高齢化率になるものと推計されており、一層の高齢化社会に適切に対応していきます。

②人口減少社会への対応

空き教室（余裕教室）の活用や広域での教育指導主事の共同設置などを進め、少子化に対応した取り組みを進めます。

③健康寿命日本一の実現を目指す

健康寿命は、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間のことで、平均寿命から日常生活に制限のある期間を除いたものです。湯河原の恵まれた地域資源を活用し「温泉」「運動」「食事」「環境自然」を取り入れた健康づくりにより、健康の増進と健康寿命の延伸を図ることで元気な高齢者を増やし、「未病を治す」取り組みを推進し、健康寿命日本一の実現を目指します。

数値目標

	実績 平成26年度 (2014年度)	実績 平成27年度 (2015年度)	目標 平成31年度 (2019年度)
介護認定者の割合 ※単純推計によるH31割合 ＝約17.0%	15.0%	14.7%	16.0% ※1%の抑制
「未病」についての認知度	—	—	70%

具体的な事業とKPI（重要業績評価指標）

1) ~~健康づくり構想（未病を治す）促進事業~~

未病の戦略的エリア「未病いやしの里」構築事業（県西地域活性化プロジェクト）

神奈川県が県西地域活性化プロジェクトに位置づけている「未病を改善する」取組を促進するため、湯河原の恵まれた地域資源を活用し「温泉」「運動」「食事」「環境自然」を取り入れた健康づくりにより、**地域の活性化と地域住民の健康寿命延伸**を図る。ことで**元気な高齢者を増やす**。

地元食材による薬膳の提供や温泉泥の活用により、古くから湯治場として栄えた湯河原温泉のイメージアップにつなげる。

■ KPI（重要業績評価指標）

事業効果の指標	実績値 平成26年度(2014年度)	実績値 平成27年度(2015年度)	目標値 平成31年度(2019年度)
1人あたり老人医療費 「未病のみえる化コーナー」の年間利用者数	822,346円 —	822,346円 —	750,000円 120人

【実施事項】

○平成27年度

- ・ME-BY0対策健康遊具を設置（桜木公園1基）
- ・チャレンジデーを開催
- ・「湯河原町民レクリエーションの集い」を開催

○平成28年度

- ・ME-BY0対策健康遊具を設置
（宮上公園2基、亀ヶ原公園3基、総合運動公園3基、幕山公園1基）
- ・チャレンジデーを開催
- ・「湯河原町民レクリエーションの集い」を開催
- ・保健センターに未病コーナーを設置

【今後の検討事項等】

○平成29年度

- ・ME-BY0対策健康遊具の設置（柵口公園、蔵町公園）予定
- ・チャレンジデーを開催予定
- ・「湯河原町民レクリエーションの集い」を開催予定
- ・県西地域の広域連携強化を検討

2) 空き余裕教室の活用事業

余裕教室については、学童保育や放課後こども教室の拠点として活用しており、今後も住民ニーズを捉えつつ、さらなる利活用を図る。

■ K P I (重要業績評価指標)

事業効果の指標	実績値 平成26年度(2014年度)	実績値 平成27年度(2015年度)	目標値 平成31年度(2019年度)
空き教室活用件数	7件	8件	2件増

【実施事項】

- 平成27年度
 - ・学童保育、放課後子ども教室の教室整備
- 平成28年度
 - ・学童保育、放課後子ども教室の教室整備

【今後の検討事項等】

- ・ランチルーム、特別教室及び部活動の充実に向けた利活用を検討

3) 町民が語り合う場づくり事業

町内の福社会館など施設を開放し、町民がゆったりと語り合う ~~ことで、親しくもなり、健康にもなる。~~場づくりを推進する。また、慶應義塾大学が中心に行っている「居場所プロジェクト」や「絵屏風プロジェクト」と連携し、多世代が交流できる機会を創出する。

■ K P I (重要業績評価指標)

事業効果の指標	実績値 平成26年度(2014年度)	実績値 平成27年度(2015年度)	目標値 平成31年度(2019年度)
開放施設利用者数	—	—	3,000人

【実施事項】

○平成28年度

- ・ 慶應義塾大学主催による多世代交流の場としての「居場所」を開設
- ・ 慶應義塾大学が中心に行った「ふるさと絵屏風」が完成

【今後の検討事項等】

- ・ 「ふるさと絵屏風」の活用
- ・ 「町民が語り合う場」としての福社会館の開放を公共施設等総合管理計画で検討

4) 子どもフォーラム開催事業

「笑顔あふれる最高の楽校（がっこう）の実現」と「小・中学校の接続」を目標とし、小学生、中学生、保護者、教職員、地域の方々などの幅広い参加のもと、7日間の日程で開催する。目標実現のための話し合い活動や交流を深めるためのアクティビティを実施して、最終日に目標実現のための発表を行う。

■ K P I（重要業績評価指標）

事業効果の指標	実績値 平成26年度(2014年度)	実績値 平成27年度(2015年度)	目標値 平成31年度(2019年度)
フォーラム参加者数	179人	221人	240人

【実施事項】

- 平成27年度
 - ・子供フォーラムを開催
- 平成28年度
 - ・子供フォーラムを開催

【今後の検討事項等】

- ・より一層、保護者や地域への広がりを持つ取組を目指す

5) 図書館資料の宅配事業

より多くの人に図書館資料を提供することを目的に、障がい者や高齢者など来館困難者に対し、宅配による資料の貸出を行う。利用認定後、電話・FAX・メールにより受付し、有料でのサービスも検討する。

■ K P I (重要業績評価指標)

事業効果の指標	実績値 平成26年度(2014年度)	実績値 平成27年度(2015年度)	目標値 平成31年度(2019年度)
事業利用者数	2人	2人	50人

【実施事項】

- 平成27年度
 - ・ 図書館資料の宅配を実施
- 平成28年度
 - ・ 図書館資料の宅配を実施

【今後の検討事項等】

- ・ 高齢者を含めた利用者の促進
- ・ 他市町村の事例研究

6) 交通不便地域の解消に向けた事業

高齢者など交通弱者を含め多くの方が気軽に安全におでかけできるよう、バス路線のない交通不便地域の解消に向けた対策を検討・実施します。

■ K P I (重要業績評価指標)

事業効果の指標	実績値 平成26年度(2014年度)	実績値 平成27年度(2015年度)	目標値 平成31年度(2019年度)
新たな交通対策の利用者数	—	—	20,000人

【実施事項】

○平成27年度

- ・交通不便地域を対象に「湯河原町公共交通に関するアンケート調査」を実施

○平成28年度

- ・湯河原町地域公共交通会議を設置

【今後の検討事項等】

- ・湯河原町地域公共交通会議において交通不便地域の解消に向けた検討
- ・新たな公共交通による実証実験を実施